

10. その他の対策

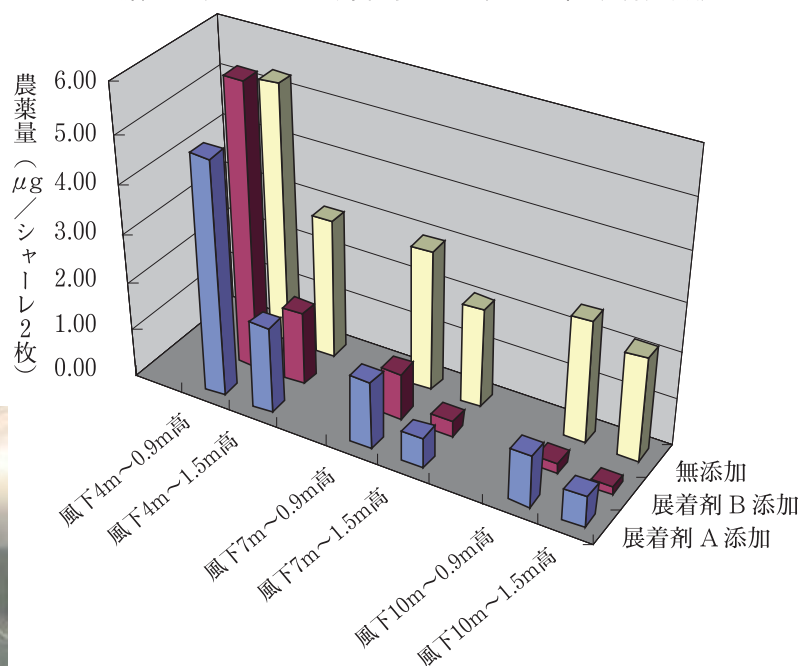
飛散による問題回避のために役立つのではないかと考えられてきた対策は、これまで解説した以外にも幾つかある。例えば、飛散を受けてしまった作物をすみやかに水洗すれば、ある程度付着した農薬を除去することができる。光触媒で付着した農薬の分解を促進するアイデアも示されている。これらはいずれもある程度の効果はあるが安定的なものではないため、安心して利用できる積極的な対策にはなりにくい。

一方、飛散対策の基本である「飛散そのものの低減」に役立つ技術は、これまで解説したもの以外にこれというものは無いが、展着剤が有効なのではないかとの指摘もある。

ノズルから噴霧された粒子は、大気中を移動する間に「やせ」が生じ、より飛散しやすい微細な粒子に変化するといわれている。こうした現象は低湿度条件で実験的に確認されているが、とりわけスピードスプレーヤのように大気中の移動距離が大きい散布法の場合、湿度や直射日光の影響をより受けやすいのではないかと考えられている。このような飛散助長要因について、有人ヘリ分野では特殊な展着剤によって粒子のやせを防止する技術があり、欧米でも類似のアジュバントが存在している。これらはいずれも少量散布における技術であるが、一部では慣行防除にも応用できるのではないかと考えられている。

これについて2008年に当協会が調査を行ったところ、ヘリ分野で使用される特殊な展着剤はその粘性から慣行防除には使用困難であったが、一般的な展着剤は一定のやせ防止効果がある可能性が示唆された。ただし、このやせ防止効果によってどの程度の飛散低減効果が期待できるのかは、現時点では明らかでない。

展着剤の添加による散布粒子のやせ防止効果（風洞試験）



(日植防研 2008 文献 7)